

花みずきだより

2012 年 秋号

明治の森箕面国定公園



- 大阪で唯一日本の滝百選に選定されている箕面大滝や、史跡・文化財がある国定公園。
- 四季折々で様々な顔を見せるが、特に紅葉が有名。

「昨日は少し冷静さを欠いており、失礼しました。あれから二人で話したのですが、やはり私たちは母を許すつもりはありませんので、お葬式には来ないつもりです。ただそれでも、産みの親には違いありません。このまま何もしない訳にもいけないので、これだけでもとお持ちしました。」

そう言われるとお二人は内縁の夫にお香典を差し出しました。そして故人様のお顔を見られると、改めてお線香をあげられて、お帰りになられました。その光景をみて、私は少しほっとしました。

最初の打ち合わせでお会いしたときのお二人は険しい表情でしたが、その日お越しになられた時の表情は穏やかに見えました。

親子に限らず血縁の間柄は、一度こじれるとなかなか元に戻すのは難しいとは良く聞きます。それは亡くなる事で精算される訳でもありません。ただ、その死に際して何かせずにはいられないのも、また人の心なのだと思います。



葬儀の仕事をしていると、ご遺族や関係者のお話から、故人様のこれまでの人生やご遺族との関係などが垣間見られます。そして最近特に感じるのが、亡くなった方とご家族や地域の方々との繋がりが希薄化しているという事です。少子高齢化や核家族化といった傾向が、こうしたケースの増加に繋がっていると思われませんが、やはり数々の方を送ってきた私共の目から見ても、一抹の寂しさを感じます。今回ご紹介するのは、そうした方のお話です。

親子

先だって病院にお迎えにあがった時、二人の男性が病室にいました。お二人は故人様の内縁の夫と甥でした。

故人様を会館にご安置してお話を伺うと、実は故人様には大阪に在住の実子がお二人いらっしやるということでした。早速ご連絡して、お越しいただきました。

会館に実子のお二人が来られ、お線香の案内をさせていただき、「お顔を見られますか？」と伺うと、「結構です」と断られました。これまでの経験から何か様子がおかしいと思い、詳しくお話を伺ってみると、「実は私たちが幼い頃、母は家を出て

先日、母とお墓参りに行ってきました。昔からある村の墓地なので、きちんと整備がされています。

お墓は、あっちを向いたり、こっちを向いたりして、歩くところもでこぼこで、よそのお墓のかどをちよつとまたいでいかなければならなかったりします。

お墓に、スミマセン、ゴメンナサイ、と声をかけながら、足の悪い母の手をひき、先祖の墓までたどりつきます。

お墓をきれいに掃除し、お花を生け、お線香をあげて、まず母がお参りをします。

母はお経を唱えます。(わー、全部覚えてるんや) 何も見ないでお経を唱えている姿にビックリしました。

「すごいね、全部覚えてるんやね。」

「毎日、仏さんにお経あげてるから、覚えてもたわ。」

次に私の番です。

「ムニムニムニムニ、ご先祖様、どうかみんなが幸せに暮らしていけますよう、お守りください。」

意作法を私の願いは、聞き入れてくださるでしょうか？

葬儀以外の仕事

毎年、八月十六日に東淀川区内にある墓地で行われる、施餓鬼供養の法要のお手伝いをさせて頂いています。

当日は、朝から祠の中や仏具をきれいに掃除してお花で飾ります。夕方からは、焼香の用意や、お参りの方に座って頂けるようにイスを並べて冷たいお茶やおしぼりを用意します。

法要準備が終わるころ、お供え物を持ったお参りの方が集まってきました。

お茶やおしぼりを配りながら、毎年の顔ぶれがそろっていることに安心します。



法要が終わった後、おさがりのお菓子を貰ってうれしそうな子供の顔や、おさがりのお花をお墓やお地藏さんにお供えするおばあちゃん顔を見ると、お手伝いさせて頂いて良かったと思うと同時に一年の早さを実感します。

イベント情報

10月28日(日) フリーマーケット ※ 出店者募集中
12月2日(日) 内覧会

前回7月22日のフリマは、いつもの産直野菜販売に加えて、ほっかほっか亭の店長さん達の協力により1階でかき氷や揚げたてのから揚げ等を販売して頂きました。夏休みということで、子供達が楽しそうに呼び込みや販売をしていたのがとても印象的でした。



ビンゴ大会の様子

手元供養



手元供養

以前、花みずきだよりで少しだけ紹介した、手元供養というものを覚えておられますか？

手元供養とは、従来の墓地・寺院・仏壇に次ぐ供養の形として、数年前から注目をあびている故人を偲ぶ形です。一口に手元供養と言っても様々なものがありますが、大きく分けると4種類に分類されます。

- ① 遺骨を加工せずに少し小さくしてカロートペンダントやブレスレットなどに入れて身に着けておくタイプのもの
- ② 遺骨を加工せずにそのまま小さな容器に入れて祀るタイプのもの。これは花みずき会館に展示してあるタイプで、ガラスの骨箱やお地藏さんの焼き物の中に入れるものがあります。
- ③ 遺骨をダイヤモンド等の宝石や石に加工してペンダントや指輪数珠にして身に着けるタイプのもの。①に比べると高価になりますが、物により加工場で完成まで見学や待機できることがあります。
- ④ 遺骨を加工して置き物のようなオブジェにするタイプのもの。

①と②は納骨型③と④は加工型ともいわれます。

加工型	納骨型
③ メモリアル ダイヤモンド・ レイセキ 等	① カロートペンダント・ ブレスレット 等
④ エターナル プレート 等	② 装飾骨箱・ 納骨型置物 等
持ち歩き	持ち歩かない

① カロートペンダント
中に細かくしたお骨
を納めます

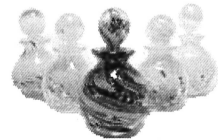


中にお骨を納められる
お地藏様の焼き物



②

装飾ガラスの骨壺



③ 遺骨を使って作られた
ネックレスやリング



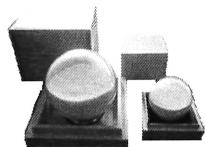
親玉に遺骨を加工した石(レイセキ)
を使って作られた数珠



④ 遺骨を使って作られた
セラミックプレート
故人様の顔や名前が刻印されます



球体ガラスの中には、
不純物を可能な限り取
り除かれたパウダー状
の遺骨が...



これらは
・お墓はあるけど手元にも置いておきたい。
・次三男や嫁いだ身だけど手元で供養したい。
・散骨を考えているが、何も残らないのはさみしい。
・諸事情があつてお墓や仏壇を置くことができないけれど、大切な人を身近で偲びたい。
と考える方たちの中で広まりつつあります。
もし今回ご紹介させて頂いた記事を読んで頂くことで従来の祀り方(お墓・納骨堂・仏壇)に加えてこんな方法もあるんだなあと参考にして頂けたら幸いです。

掲載原稿募集

あなたの思いを花みずきだよりに

のせてみませんか？

花みずきだよりには、今まで花みずき会館のスタッフを感じた事や葬儀にかける思いを掲載してまいりましたが、『実際に喪家となられた方々の経験や、故人様へのメッセージや手紙を掲載させていただく事で、同じように大切な方をうしなされた方々への力になるのではないかと』という意見がありました。そこで皆様の葬儀体験や故人様へのメッセージ等を募集したいと思います。

- ・大切な方に伝えたいありがたい言葉
- ・喪家となって大変だったこと
- ・お葬儀を通じて感じた事、気づいた事 等

50文字〜1600文字以内で花みずき会館までご送付下さい。お送りいただいた方には、心ばかりのお礼を差し上げます。※掲載時には〇〇区Aさん〇〇のようにイニシャル表記にしますが、匿名希望の方はその旨も明記して下さい。

尚、ご送付頂いた原稿はお返し致しかねますのでコピーを送付して下さい。

〒533-0014

大阪市東淀川区豊新5丁目19番16号

花みずき会館 花みずきだより係

お問い合わせは、0120-36-8622

花みずき会館まで

最後までお読み頂き、ありがとうございます。
今後皆様役に立つ情報を提供するために、ご意見や感想をお待ちしております。
スタッフ一同